

どの子どもも輝き
笑顔いっぱい
とねがわ幼稚園

よい頭・よい躰・強い体

とね幼だより



令和2年 3月

令和元年度も、保護者の皆様からたくさんのお支援・ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。 園長 笛木 哲

「弥生3月。カレンダーの写真は一気に春めいてきました。菜の花が揺れ、桃が咲き、遠くにはまもなく新緑に映える山なみが霞んで見えます。定番の春景色が、冬のモノトーンの殻を割りました。頬をなでる日差しもずいぶん温くなりました。春を迎える喜びは、ひとしおです。」いつもの年ならこのように春に浮かれ、心も弾んでくるものですが今年の春は違います。世界は新型コロナウイルスの脅威におびえ、ひたすら耐えるしかない閉塞感と絶望に打ちひしがれています。



2月28日（最後の登園日） 年長児が全員揃って、ホールで記念撮影

本来、3月の幼稚園は、にぎやかで華やかです。それは一人ひとりの成長を喜ぶ1年のまとめの時期であり、卒園生にとっては、人生初の巣立ちの節目に当たるからです。卒園式は、親無しでは外の世界に立ち向かうことができない、ちっぽけな存在であった子どもが、親元から離れ、寂しさに耐え、困難を乗り越え、心身共に逞しく成長した幼稚園生活の集大成として行われます。とねがわ幼稚園で生まれた60名の輝く命を、保護者の皆様と職員が一体となって祝う中で、卒園生一人ひとりに卒園証書を手渡し、笑顔と涙で送り出す、それが園長としての私の最大の使命でした。

しかし、私は、新型コロナウイルスの先の見えない脅威がしばらく続くことから、臨時休園と園児だけの卒園式を決断しました。まさに断腸の思いです。子ども達の思い、親の思い、そして担任の思いを断ち切ってしまったことへの申し訳なさ、見えないウイルスへの憤りだけが今の私を支配しています。

3月2日。最初の休園日に、年長児の保護者から「親の思いを伝えたくて。」と何件かお電話をいただきました。「新型コロナウイルスがこの先どうなるかわからないのだから、ここで決めないで決断を先延ばしにできませんか?」「保護者1名がマスクをし

て式に参列というのはどうでしょう？」「閉鎖空間での感染が予想されるのなら、卒園式を園庭で行ったらいかがですか？」…と。どの電話も‘子どもの最後の晴れ舞台をこの目に焼き付けたい’という親としての純粋な愛情から発せられていました。最後に電話を受けたお母さんの「私たち親が式場に入れなかったのは分かりました。そのかわり、子ども達にとって一生心に残るような、私たち親の思いが伝わるような素晴らしい卒園式にしてあげてください。」という言葉が今も耳に残ります。電話の向こうのお母さんは泣いていらっしやいました。私も思わず涙がこぼれました。「お母さんの思いを職員に伝えます。子ども達にとって忘れがたい卒園式にします。」とやっと言葉にし、電話を切りました。

在園生にとっても、3月はとても大切な時です。先週の月曜日の朝、年中の担任が年長の担任に、「飼育当番の様子を見させてください。」と声を掛けていました。憧れの年長さんのもとで、これまで自由気ままに過ごすことのできた年中さんが、いよいよ『とねがわ幼稚園』のリーダーとしての責任を引き受ける大切な引き継ぎの時期になったのです。3月の1ヶ月で、4月からの1年間の心構えを年長さんの姿を通して教えてもらうはずだったのです。また3月は、1年間共に過ごし太い信頼関係で結ばれた子どもと担任が、成長を喜び合い、別れを惜しむ、そんなかけがえのない時間でもありました。

多くの感動に出会った一年に感謝すると共に、この最後の無念さは一生忘れません。

園児が輝く時

※毎日、HP「園長ブログ」で「その日の写真」を掲載しています。よろしかったらご覧ください。

		
<p>利根川康平理事長「お別れ式」 子どもが大好きな理事長は、子ども の手を取り、別れを惜しみました。</p>	<p>作品展 各教室には、子ども達 が作った世界に一つだけの芸術 品が所狭しと並べられました。</p>	<p>引き継ぎ式 年長さんから年中さん に鼓笛、飼育当番、縦割りリーダー、 あいさつのバトンが渡されました。</p>
		
<p>卒園遠足 雨模様でしたが天 気は回復し、友だちとの絆を深 めることができました。</p>	<p>別れ 2月28日は子ども にとっても教師にとっても あまりに突然でした。</p>	<p>親の学習 木村真弓先生「バ レリーナがおすすめする自宅 でもできる健康ストレッチ」</p>

卒園生の進学先 小学校でのご活躍をとねがわ幼稚園職員みんなで応援しています！

中山小学校 18名 伊草小学校 22名 つばさ南小学校 4名 つばさ北小学校 11名
川越市の小学校へ 3名 東松山市の小学校へ 1名 坂戸市の小学校へ 1名

